

第2節 オンドル状遺構について

伊勢貝遺跡の竪穴住居跡SH2で検出した竈と煙道部はL字形竈の形態を示し、オンドル状遺構と称されるものである。オンドル状遺構（L字形竈）は、大多数の竈の煙道部が竈の燃焼部からまっすぐのびて住居の壁の外に出るのに対して、竈からL字形に曲がって住居の壁の外側あるいは内側に沿って右や左にのびて、住居の隅部分の壁から外に出ていく形態のものである。

オンドル状遺構（L字形竈）は朝鮮半島北部のカン(?)と呼ばれる炊事の余熱を利用した壁暖房施設に類似しており、床暖房のオンドル（温突）とは区別する意見も多くある。また、検出遺構の形状を重視してL字形カマドと称されることも多い。ここでは屋内の暖房機能を有する施設と広義に解釈して、広く使用されているオンドル状遺構（L字形竈）という名称を使用しておく。

このオンドル状遺構（L字形竈）を造り付けた住居が検出された場合は、渡来人との関りが考えられ（亀田 2003）、朝鮮半島からの渡来人の存在が推定できる根拠とすることができるであろう。

オンドル状遺構は、4世紀の初頭までには日本で認められるようになり、8世紀まで存在するのであるが、通常の竈に比べて極めて限られており、全国でも40遺跡程度（松室 1996）にとどまる。それによれば、オンドル状遺構の分布は北部九州と近畿地方に多く、北部九州では福岡県、近畿地方では京都府・滋賀県が特に多い。近畿地方では滋賀県西ノ辻遺跡で4世紀後半に出現し、滋賀県大塚遺跡、京都府今林遺跡、大阪府小阪遺跡、滋賀県岩畑遺跡、和歌山県田屋遺跡などで5世紀代のものが確認されている。また、京都府綾部市の青野・綾中遺跡群では6世紀末～8世紀前半にかけて30棟以上が確認されており、青野型住居（中村 1982）と呼称されている。

兵庫県内では管見によれば、神戸市郡家遺跡や平成20年に兵庫県立考古博物館が調査をおこなった姫路市市之郷遺跡SH-E20で確認されているにすぎない。郡家遺跡では城の前地区で検出された4棟の住居跡について、L字形の煙道が住居内を走る「郡家型住居A」（第23・26次調査SB02・03）と住居外の「郡家型住居B」（第24次調査SB05・06）に分け、Bが発展形態とされた（丸山 1990）。後にAは5世紀後半、Bは6世紀前半に時期修正されている。市之郷遺跡では竈本体を確認できなかったものの、竪穴住居の壁内部に沿って長さ約1.2mの煙道部を検出している。時期は6世紀末～7世紀前半である。

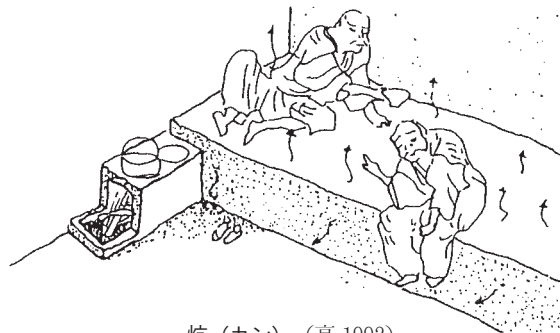
L字形カマドとしてオンドル状遺構の形態分類をおこなわれた松室氏によれば（松室 1996）、郡家遺跡のSB02・03はB2類、SB05・06はC2類に分類されており、市之郷遺跡例もB類に分類できると判断される。また、伊勢貝遺跡SH2は煙道部がL字形ではなくT字に近い点がやや特異であるが、松室氏のD類に分類でき、右側に煙道が存在することからD2類になると思われる。なお、伊勢貝遺跡の煙道部で、西（左）側に張り出す部分の機能については不明である。

松室氏の分類のうち、住居コーナーに竈を有し、壁沿いに煙道がのびるA類と、竈が辺の中央部にあって壁際にのびるB類および住居の一部を掘り残して煙道を通すD類は、ともに煙道部が屋内に存在することから、屋内において煙道を覆うかたちで壇を構築してカンのような暖房施設とすることができる点で、その機能面においてA・B・Dの3類は変わりがないと推定される。一方、煙道が住居外で折れて壁に沿ってのびるC類は、壁の外側の屋外に存在することから、壁自体を温めるという熱効率の点と屋内施設の構造の点で前記の3類とは異なる可能性がある。

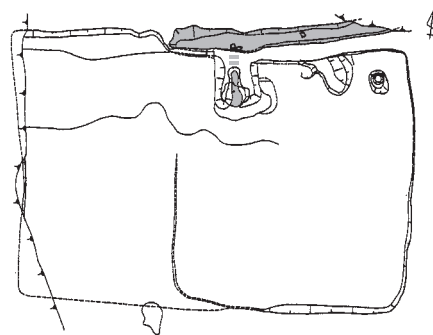
伊勢貝遺跡でオンドル状遺構（L字形竈）を有する竪穴住居跡が検出されたことは、朝鮮半島から移住し

類	細分	1	2	3
A				
A'				
B				
C				
D				
E				

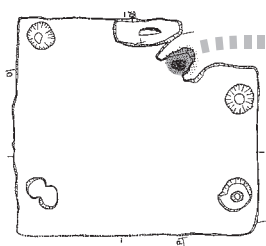
松室氏による分類（松室1996、一部省略）



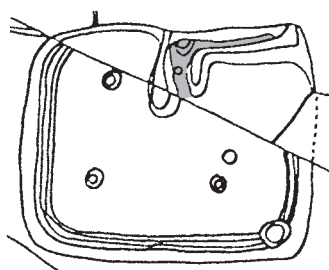
炕（カン）（高 1992）



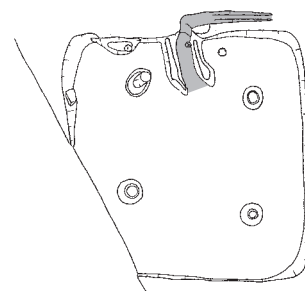
伊勢貝遺跡 S H 2（本書）



青野遺跡 S B 207（中村1988）



郡家遺跡 S B 02（丸山1990）



郡家遺跡 S B 06（丸山1990）

第 8 図 オンドル状遺構（L 字形竈）の分類と諸例（住居跡図の縮尺：1/150）

てきた渡来人が、5 世紀末～6 世紀初頭の時期には伊勢貝遺跡でも住んでいた可能性が高いことを示しており、5 世紀後葉の T K 208 型式期～T K 23 型式期に開始された三田末窯跡群中で最も古い郡塚 1 号窯（第 1 図 64、菱田 2010）の成立には、渡来人の関与があったことを示唆するものであろう。

【参考文献】

亀田修一 2003「渡来人の考古学」『七隈史学』第 4 号 七隈史学会

高 正龍 1992「朝鮮半島」『古墳時代の竈を考える』第一分冊 第32回埋蔵文化財研究集会

中村孝行 1982「青野遺跡第 5 次発掘調査概報」『綾部市文化財調査報告』第 9 集 綾部市教育委員会

中村孝行 1988「青野遺跡第12次発掘調査概報」『綾部市文化財調査報告』第15集 綾部市教育委員会

菱田哲郎 2010「郡塚窯跡群第 1 号窯跡」『三田市史』第 8 巻考古編 三田市

松室孝樹 1996「竪穴住居に設置されるL字形カマドについて」『韓式土器研究』VI 韓式土器研究会

丸山 潔 1990「郡家遺跡 城の前地区第24次調査、城の前地区第26次調査」『昭和62年度 神戸市埋蔵文化財年報』
神戸市教育委員会